

もんし 聞思

発行所 光山寺
〒758-0063
萩市 大字山田4553
TEL (0838) 22-1370
http://kousanji.net

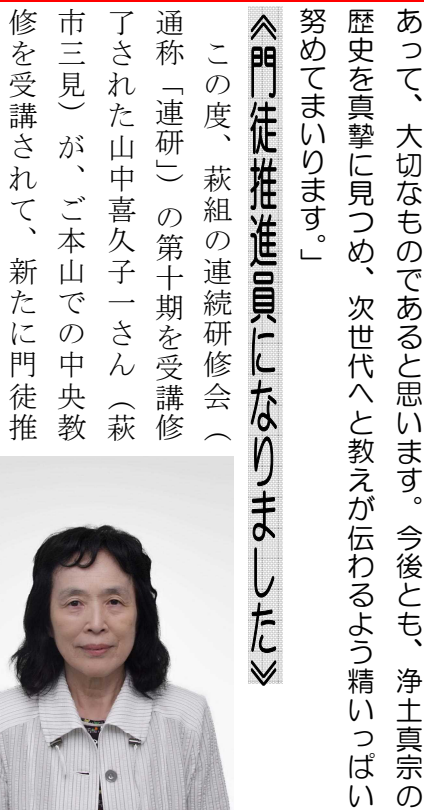
私は念仏すれば助かるというおのりではありません。念仏しなければたすからないと、法要終了後、新門様のお言葉も発表されました。おのりではないと、二〇一四年六月に法統を継承することになりました。親鸞聖人が『教行信証』を著されて以来、七九〇年間にわたって浄土真宗のみ教えが受け継がれてきました。阿弥陀如来のはたらきにより、私のもつ自己中心性を自覚しながら、自己と他者を平等に尊重する浄土真宗の生き方は、混迷する社会にあつて、大切なものであると思います。今後とも、浄土真宗の歴史を真摯に見つめ、次世代へと教えが伝わるよう精いっぱい努めてまいります。」

曾我量深

退任を表明

ご門主さま

本願寺



門徒推進員になりました

この度、萩組の連続研修会(通称「連研」)の第十期を受講修了された山中喜久子一さん(萩市三見)が、ご本山での中央教修を受講されて、新たに門徒推進員となられました。光山寺の仏教婦人会副会長やコーラス指導もいただいている山中さんより「今できることを」と題して感想を頂戴しましたので、ここに紹介します。

「それは、突然の出来事でした。昨年十一月十九日に転倒して、膝を骨折したのです。十二月に参加予定の門徒推進員養成中央教修を一度は断念しようかと思いましたが、本年三月に延期してもらい、京都に行つてまいりました。また今度“はないよ”うな気がしたからです。また、正座ができない三泊四日は長いと思つていましたが、数々のご配慮をしてくださり、充実した楽しい中央教修でした。全国から集まった門信徒の方たちと同じ場所で語らうことができたこと、こんな経験はめつたにできものではありません。萩組の連続研修、そして、本山での中央教修に、一歩踏み出して、皆さんも参加して欲しいと思つます。年齢制限がなくなったということで、大正九年生まれ、九十五歳の方が参加されていました。『阿弥陀さまに救われました……』と語られた言葉が、ずしりと胸にひびきました。私も歳を重ねて、“かくありたい”と思いましたが、明日のことはわからぬ身です。今できることを、ひとつずつ積み重ねていけたらと思います。お寺参りの輪を広げるために。」

さる四月十五日、立教開宗法要(春の法要)後、浄土真宗本願寺派大谷光真ご門主様が、来年六月五日をもってご退任されることを表明されました。ご門主様のお言葉は、以下の通りです。「この度、私は、本願寺住職、浄土真宗本願寺派門主を退任することになりました。一九七七(昭和五二)年四月に就任して以来、満三六年が過ぎました。明年の六月五日をもって、退任いたします。先代勝如門主は一九七三(昭和四八)年の本山本願寺における親鸞聖人御誕生八百年立教開宗七百年のご法要を終え、引退をお決めになりました。私は、親鸞聖人の七百五十回大遠忌法要のご満座の導師を勤めることができました。そして、時代の変化に対応するよう宗門の組織を整えられました。十年後にはご誕生八百五十年を迎えます。新たな歩みを始める良い時期であると考えます。後を継ぎます新門は、既に、築地本願寺の副住職として、実務に就くばかりでなく、首都圏を始め各地を訪ね、宗門の事情への理解を深めています。新鮮な感覚と知識をもって任を果たしてくれることと思います。申すまでもなく、私は、住職門主の職務を離れましても、浄土真宗の僧侶であることに変わりはありません。退任後も、ご法義繁昌のため、その務めを果たす所存です。宗門の行事等は一年以上前に準備を始める場合も少なくありません。継承が円滑に行われるよう、この時期に、退任を表明することにいたしました。」

光山寺行事案内

平成二十五年度の光山寺中期行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

- ★**光山寺法要**
五月一日(水・木曜) 春季永代経法要(講師、中島昭念師)
九月二六・二七日(木・金曜) 秋季永代経法要(講師、上原泰教師)
- ★**山口教区・萩組**
五月二二日(火曜) 萩組初参式(萩幼稚園)
六月一日(土曜) 萩組総代会総会・研修会(西生寺)
六月九日(日曜) 萩組仏教婦人会大会(萩幼稚園)
六月二〇日(月曜) 山口別院、永代経法要(萩組参拝日)
六月二二日(土曜) 萩組仏教壮年会総会・研修会(平安寺)
七月二六・二七日 萩組子供一泊合宿(萩幼稚園)
- ★**子供会(土曜学校)** 午前九時(本堂)
五月十一日(土曜)・六月十六日(日曜)・七月十三日(土曜)
八月四日(日曜) ※原則第三土曜家族の日開催。
- ★**仏教青年会** 子供会と合同開催(庫裏)
五月二六日(日曜)・八月四日(日曜)
- ★**仏教壮年会**
六月九日(日曜) 午後七時 仏教壮年会総会(本堂)
六月or九月(日曜) 午前八時 光山寺ソフトボール大会
- ★**仏教婦人会**
五月十九日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式
五月二六日(日曜) 午後一時半 全役員会
六月二七日(木曜) 午前八時半 清掃・莊嚴・リハーサル
六月二九・三〇日(土・日曜) 光山寺婦人会法座(佐々木大乗師)
- ★**総代会** 六月十六日(日曜) 午後五時(本堂) 総会
- ★**親鸞聖人讃仰会** 午後八時(本堂)
六月十七日(月曜)・八月五日(月曜)
- ★**礼讃の夕べ(旧、正信偈唱和会)** 午後八時(本堂)
五月十一日(土曜)・六月八日(土曜)・七月六日(日曜)
八月十日(土曜)・九月七日(土曜)・十月十二日(土曜)
- ★**雅楽練習会** 午後七時半(庫裏)
五月十九日(日曜)・六月三日(日曜)

※コーラス練習会日程についてはお問い合わせください。

募集・お知らせ



●礼讃の夕べ 五月十一日(土曜日)午後八時より今年も開催!

「正信念仏偈」の練習をしてきましたお経の練習会も今年で二十三年目となります。どなたでも参加できるお経の練習会として、本年も五月から十月までの月一度の練習(原則第二土曜日の午後八時)で、お経本(聖典)を中心に日常の基本的勤行の一通りを練習したいと思えます。お経本をお持ちでない方は光山寺にて用意しますので参加当日にお申し出ください。最近では新しい参加の方も増えつつあります。お若い方、はじめて参加の方は大歓迎です。

(お申し込みは不要・無料です)

●光山寺初参式 五月十九日(日曜)午前九時半

親鸞聖人のご誕生月である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施しています。今年も五月十九日光山寺本堂にて開催されます。生後一年くらいまでのお子さんが対象となります。仏の子として育つため仏教のご縁に初めてあつたの初参式です。昨今子供の減少が激しいところですが、どうかご親戚等に対象となるお子さんがいらっしゃいました是非お申し込み、ご参加ください。尚、お子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。当日参加できない方は個別の初参式や自宅での初参式も受け付けています。尚、萩組の初参式は五月二十一日に萩幼稚園にて開催予定です。こちらにも参加受付中です。



●親鸞聖人一人鑽仰会 会員募集!

親鸞聖人のみ教えを鑽仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人鑽仰会」を四月よりスタートしましたので、新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず広く親鸞聖人のみ教えを仰ぐ方々の集まりです。年会費は二千円で二ヶ月に一回の開催。西本願寺の『季刊せいぜん』を中心に学習します。浄土真宗聖典註釈版が必要となりますが、お持ちでない方は申し出ください。尚、開催は偶数月第三月曜日午後八時より(次回六月十七日)となりますのでご注意ください。(詳細別紙にて申し込みください。)

●本の紹介 『浄土真宗はじめの一步』

タイトルの通り、浄土真宗の入門書です。京都女子大学の森田真円先生による「浄土真宗の教え」では、「他力本願」「悪人正機」などキーワードで浄土真宗の教えを紹介しています。また、相



愛大学教授の釈徹宗先生による「なるほどナットク浄土真宗」では「戒名と法名」「天国と地獄」の違いなどをわかりやすく解説します。その他、お仏壇のお飾り、焼香の作法、本願寺の参拝案内が好評です。(本願寺出版社 二二六〇円 ISBN 978-4-89446-724-4)

若院安居副講者として出講

本年七月十八日から三十一日まで開催される本願寺安居(本願寺派僧侶の宗学研鑽の講会)に、若院が副講者として出講し、法然聖人の名著である『選択集』を講義することとなりました。リハーサルを含めて二週間以上の長期研鑽の場となります。その間、光山寺法務や各種行事に若院が参加できません。関係するご門徒の皆様には多大なご迷惑をおかけしますが、ご理解の程宜しくお願いいたします。

山口教区・萩組の実践運動重点目標をまとめる

宗門では、二〇二二(平成二四)年四月一日より、これまでの基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)推進の成果を踏まえ、「宗制」に掲げる基本理念を体し、あらゆる人々が「自他共に心豊かに生きる」ことのできる社会の実現に貢献する「活動として、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進している。

総合テーマは、「そとつながる ホッがつたわる く結ぶ絆から、広がる縁へ」で、東日本大震災以後、「絆」が時代を象徴する言葉となったが、絆とは、離れがたくつながりあっている関係を意味している。悲痛な経験を通して、人と人との「つながり」の尊さへの気づきが始まっているが、さらに一歩踏み込んで、「つながり」のより深く広い意味を、仏教の立場から発信していくのが「縁」という言葉である。「そと」とは、やさしく包みこむようにつながることを意味し、「ホッ」とは、そうしたつながりの中で与えられる安心感のこと、こうした活動を通して、つながりの大切さが実感され、安心と温もりのある社会に寄与していきたいと考えている。わたしたちは、大悲のはたらきに包まれている身として、「縁」の尊さ、大切さを、社会の中に広く浸透させていく活動を進めてまいります。

その重点プロジェクトとして、具体的な社会活動展開課題もいくつか提示されたが、山口教区や萩組では、「葬送儀礼」を中心とし、特に「葬儀の意義を伝えていく」ことに重点を置いていくこととなった。大切な人の死を通して、生きることの意味や如来の救いの尊さを知らされていく、という葬送の本来の意味を、葬儀や僧侶のあり方を研鑽することによって、再生させていく。その活動を通して、死別の悲嘆に寄り添い、受けとめることのできる社会づくりに寄与していくことがその内容と

なる。萩組では本年度は葬儀の内容や進め方について論議し、先に発行されている「葬儀のしおり」についても見直し改訂をはかることとなった。

尚、光山寺では、先にご案内のとおり、護持会発足にともなう、「お寺へのお参りの輪を広げましょう」のスローガンを実践目標として掲げ、「まず、私がお寺へお参りいたします。」「あなたもお参りいたしましょう。」「誘いあい、声かけあつてお参りいたしましょう。」「との具体的指針のもとに、お寺参りの輪をひろげる活動を展開することとなった。

法話「悪人」 東北教区 松井丘司

もし、「あなたは善人ですか、それとも悪人ですか」と尋ねられたら、皆さまはどうお答えになるでしょうか。

「私は根っからの善人です。生まれてこのかた悪いことなどしたこともないし、思ったこともありません」といい切れる人は少ないでしょう。また、「私は本当の悪人です。私には、良心などというものは全くありません」とおっしゃる方も少ないのではないのでしょうか。「まあ、大体は善人だと思いが、時には悪いことをしたり、考えたりすることもある」という人や、「どだい人間というものは、善と悪とが同居しているのだから、あなたの善人か悪人かという質問自体が無理なんだ」とおっしゃる方は、かなりおられるのではないかと思います。

ところが親鸞聖人は、ご自身をはっきり極悪の人と断定しておられます。これは普通の、世間的な意味での悪人とは少し違うようです。つまり、阿弥陀如来というまことに素晴らしい、光に満ちあふれた方の前に自分を置いた時に、自分のおろかさ、みにくさがあるままに映し出される、それが親鸞聖人の悪人の自覚なのです。ですから悪人の自覚は、そのまま阿弥陀如来の光に包まれていることによるこびでもあるわけです。

このように悪人という受け取り方は、他にはない素晴らしい教えなのですが、一方ではこれを誤解して、「いくら悪いことをしてもかまわない」とか、「悪いことをすればするほど救われる」と考えている人も、事実あります。

しかし、親鸞聖人の教えはそうではなくて、こんな悪人の自分が救われていく教えであり、積極的に世のため人のために生きることを教えてくださるものであります。

テレホン法話集「いつでもどこでも」(第1集)より転載